

情報提供資料

TDAMフォワード・ルッキング・リサーチ

債券運用部 チーフ・ストラテジスト兼ファンドマネージャー 浪岡 宏, CFA

2024年12月17日

～2025年の見通し～

今年も早いもので、もう、来年の見通しについて各所から問い合わせを受ける時期となった。

前回のフォワード・ルッキング・リサーチではサプライズシナリオについて述べたが、今回は、メインシナリオについて取り上げたい。

まず、日本経済の見通しであるが、筆者は底堅い展開を予想している。その背景は、実質賃金が改善しつつあることに加えて、潤沢な家計の貯蓄などがあるだろう。家計の現預金の保有状況は、コロナ禍においてそれまでのトレンドを超えて増加した(グラフ①)。これが、昨今の物価高にもかかわらず消費が底堅い理由とみている。こうした状況は来年も続くだろう。ちなみに2025年の春闘では、2024年ほどではないものの、相応にベースアップが達成されるとみている。

日本株については、こうした状況に加えて、長期的には資本効率の改善という面にも期待したい。緩やかな株価上昇を予想する。

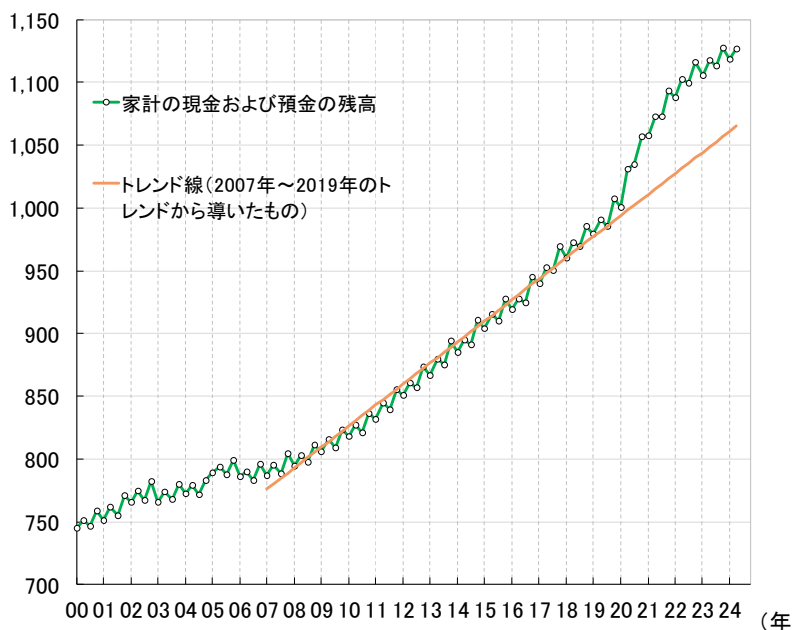
米国経済については、トランプ政権の政策次第であるため、難しいところだが、潜在成長率を上回って推移するだろう。こうした環境はFRB(連邦準備制度理事会)にとって、利下げを難しくする可能性があるかとみている。政策次第ではインフレの再加速に注意したい。

米国株については、景気の良好さに加えて、トランプ氏の米国第一主義的な政策が株価を支えると予想する。

なお、為替については、日米の金融政策スタンス(日本:利上げ方向、米国:利下げ方向)の違いがドル円の重しとなるだろうが、構造的な円安圧力(日本のデジタル赤字、日本からの投資フロー)などもあって、横ばいから小幅な円高進行にとどまるとみている。

ちなみに、1950年以降、巳年のTOPIXのパフォーマンスは他の年と同程度であった。果たして、来年はどうなるか、よく見守りたい。

(兆円) (グラフ①) 家計の現金および預金の残高



期間: 2000年第1四半期～2024年第2四半期(四半期データ)

出所: 日本銀行、BloombergよりT&Dアセットマネジメントが作成

【ご留意事項】本資料は、T&Dアセットマネジメントが情報提供を目的として作成したご参考資料であり、投資勧誘を目的としたものではありません。したがって、個別銘柄に言及した場合でも、関連する銘柄の当社ファンドへの組入れを約束するものでも、売買を推奨するものでもありません。本資料は、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。本資料は、当社が信頼性が高いと判断した情報等により作成したものです。その正確性・完全性を保証するものではありません。本資料中の数値・グラフ等の内容は、過去の状況であり、将来の市場環境等を示唆・保証するものではありません。本資料は作成時点での見解であり、今後予告なく変更する場合があります。ご投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断ください。